

第 90 回企画展

木の实(ドングリ)の食文化

～ 森の恵みの活用と飢饉など食料不足時に命を救った食べ物 ～



令和5年9月1日(金)～12月28日(木)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

木の実食は古くは縄文時代からあり、東北地方では縄文中期にはトチやナラの実が主要な植物質食料であると言われています。縄文時代の中期後半の住居遺跡から発掘された炉からは、当時の人々が「アク抜き」技術をもっていたことが明らかになっています。

また、八戸市の是川遺跡の特殊泥炭層からは、クルミ、トチ、ナラの実が発掘されています。特殊泥炭層とは、遺跡の人々が食料にした果実の殻を水中に投じたものが堆積してできたもので、この中に原形をとどめた木の実が残っています。

また、一戸町の御所野遺跡では、これまでの調査の結果から、御所野に住んでいた人たちは、食料を得るためにクリやトチなど木の実のなる林を作っていた可能性があることを紹介しています。

岩手県では、「縄文時代の末裔たち」の著者である畠山剛氏が、昭和30~40年代の岩泉町や北上山系北部の食料生産技術等の調査を行い、当時の大部分の農家では、本畑や焼き畑からの生産だけでは食料の自給ができず、不足部分を木の実でおぎなっていたと報告しています。ある農家では、年間食料の約18%を木の実でまかなっていたそうです。

木の実は、冷害で畑の作物が実らない年でも採取できることから、厳しい北国の自然の中で、大切な食文化として伝えられてきました。秋になるとドングリ、クルミ、ヤマグリ、トチなどの実を拾っては、補完食料として、また、救荒食や行事食としても利用してきました。

今回は食料として用いられた木の実のうち、特にドングリなど堅果類を中心にして、その種類のほか、利用方法などを含めて紹介いたします。



トチの実の入った俵(江戸時代)



殻をむいたドングリ

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

北上市飯豊3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間/水曜日~日曜日 9:00~16:30(入館は16:00まで)

休館日/月・火曜日(月曜日が祝日の場合は直後の水曜日)

入館料/一般320円 学生150円 高校生以下は無料 団体割引等(20名以上)があります。

障害者手帳などの交付を受けている方及び介護サービス事業などで入館される方は
入館料が無料になります。

駐車場/大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台